

兵庫県立西宮病院

地域医療連携室便り

2006年12月 第3号

副院長 西川 正博

寒さもひとしお厳しくなってきました。病病・病診連携をいっそう緊密にと、汗をかきかき始めた乾由明地域医療連携部長の病院めぐりも軌道に乗ってきました。これからもよろしくお願いします。

医師不足が大きな問題となっています。救急医療ができる医師、専門分野以外の知識もある医師の養成などのお題目で始まった新臨床研修システムは、2年間医師の供給が止まることであり、現在の医師不足は自明のことです。大学医局の人事権を奪うことがこのシステムの大きな目標とと思っていましたが、4月の診療報酬・介護報酬の改定をみると厚生労働省はもっと狸でした。現在日本の病院のベッド数は160万床で、このうち一般病床（急性期）は90万床だそうです。厚労省は施設体系や病床数の再編プランの検討をふくめた急性期医療の集約化をはかると言っています。すなわち急性期病床は50-60万床にまで減らすという意味だそうです。また、6年後には介護療養型の医療施設の廃止と療養病床の再編・削減も言われています。つまり勤務医は少なくてもよい、急性期型の病院は急性期だけ診てすぐ患者さんを外にほっぽりだしなさい、療養型の施設もいつまでも入院させてはいけませんよ、と言っているのです。

その方策としてDPC(Diagnosis Procedure Combination、急性期入院医療の診断群分類に基づく一日当たりの包括評価制度)の導入を指導しています。いままでの出来高払いではなく、疾患に応じた入院料の請求となります。当然、入院期間が短ければそれだけ単価は高くなりますから、急性期型の病院としてはある程度の見込みができれば完治まで診ず退院をお願いすることになります。

そこで後方連携が更に重要になってきます。療養型の病床を持つ病院、在宅医療の可能な開業の先生方をお願いするしかありません。来年2月には、つちやま内科クリニックの土山雅人先生に「在宅医療と栄養管理」についてご講演をしていただきます。土山先生によれば在宅医療に取り組んでおられる先生も多数とのこと。また当院は電子カルテを考えており、そうなると外来診療業務は縮小となります。前方連携も更に必要となります。地域医療連携室をとおして一層の結びつきをよろしくお願いします。





<部門紹介>

第3回目は、内科（循環器）からのご紹介です。

当院での循環器診療の強化への取り組み

内科（循環器） 千森 義浩

当院では、この度、連続血管撮影装置が更新され、この10月よりこれまでの腹部・脳血管に加え、心血管に対する検査を開始しております。

また、これに先立ち9月には、国立病院機構呉医療センター（前国立呉病院）より篠原主一先生が赴任され、循環器内科は、スタッフ3人体制で診療にあたることになりました。

当院の循環器内科外来には、すでに狭心症や心筋梗塞の既往のある患者さまはもちろん、高血圧・高脂血症・糖尿病といった生活習慣病をお持ちの言わば「虚血性心疾患予備軍」の患者さまが数多くおられます。また、昨今は、高齢の心血管疾患を合併された高リスクの周術期患者さまも多く、県立病院としてかなり以前より循環器診療の拡充が望まれておりました。この度の新機器導入でこれらの要望に応えていきたいと考えております。

本機器はPHILIPS社製Allura XperFD20/10であり、フラットディテクタを採用していることから低線量で被爆をかなり低減することができ、かつ高画質が得られる特徴を持ち、将来的にDICOMなどの他のインターフェイスとの接続可能な機種となっております。開始当初は心血管造影のみといたしますが、急性心筋梗塞をはじめとする虚血性心疾患に対する緊急検査および治療ができるよう順次整備していきたいと考えております。また、周辺機器の導入も行っており、従来のEPS（心臓電気生理検査）、ペースメーカー治療だけでなく、不整脈に対してのアブレーションなどより高度な治療も提供できるようにしていく方針です。適応と思われる患者さまをご紹介いただければ、検査・治療ののち専門的な見地よりご報告申し上げます。

今後も地域のみなさまのご期待にそえるよう努力してまいります。ご指導・ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

<医師異動のお知らせ>



平成18年9月に新しく赴任しました医師をご紹介します。

篠原 主一 内科医長（循環器）

平成18年9月から兵庫県立西宮病院内科に勤務することになりました。

これまでの経歴を簡単に述べますと、平成10年に卒業後、淀川キリスト教病院脳血管内科、国立病院機構呉医療センター循環器科に勤務しました。

当院の循環器部門は、私を含めると医師が3人体制となり、10月から心カテーテル検査も開始しました。地域の循環器疾患の診療に少しでも役に立てるよう、できる限り努力していく所存です。

“あなたの家にかえろう”
在宅末期医療推進のための地域連携について



6階病棟看護長 福島 芳江

平成18年度の診療報酬改定は、史上最大のマイナス改定であり、これらは私たち医療者のみならず、患者・家族の皆様にも大きな影響をもたらし、医療を取り巻く状況は更に厳しくなっています。しかし、その内容をみると全体が引き下げられているのではなく、急性期医療や重点化すべき領域への配分は手厚いものとなっているため、機能分化や病診・地域医療の推進の強化が求められています。

私どもの病院でも、病々・病診連携ワーキングチームを立ち上げ、地域の病院訪問などを行いながら、地域の先生方とスムーズな連携が図れるよう積極的に活動をしています。

私の所属している6階病棟は、婦人科・外科・小児科の混合病棟で、小児以外は女性患者さまのみを受け入れる女性病棟となっており、外科においては、乳腺疾患を主とし、外科、婦人科共に手術や化学療法を受ける患者さまが7～8割を占めています。しかし、癌末期の患者さまも多く、これらの患者さまを可能な限り在宅へ導くよう、日々、主治医や医療ソーシャルワーカーと共に退院支援に取り組んでいます。

昨年度は、適応患者さまが少なかったことと、在宅支援を進めるうちに亡くなられるケースが多く、結局、当病棟から在宅へ移行したターミナル患者さまは1事例しかありませんでした。今年度は、すでに婦人科2事例（2事例とも子宮癌）、外科8事例（乳癌3事例、胃癌3事例、大腸癌2事例）の計10事例を在宅へ導くことができました。どの患者さまもほとんどが予後数ヶ月と診断され、歩行や食事摂取も困難で当院への通院も難しくなっているケースが大半を占め、7割以上の患者さまが在宅で毎日の点滴管理を必要としました。

中には、点滴のみならずPTCD管理や創部のガーゼ交換などを必要とするケースもあり、介護する家族の不安が強かったり、介護者が高齢である場合は、「やはり家へは帰れない。」「病院から追い出される。」と不安を訴えられることもありました。

しかし、根気強く時間をかけて説明し、患者・家族が安心して在宅医療を依頼できる往診医や訪問看護師を紹介することで徐々に在宅を受け入れ、どのケースも最終的には患者・家族共に笑顔で退院して頂くことができました。これらは、在宅療養支援に携わる先生やケアマネジャー、訪問看護師の方々が、快く当院の患者さまを受け入れて下さったお蔭であると心から感謝しています。

もう20年近くも前のことになりますが、癌末期の50歳代の女性患者さまが「家にもう一度帰りたい。畳の上で家族と過ごしたい。」と新人看護師だった私の手を握り締め、涙を流されました。主治医や先輩看護師に相談しましたが、「在宅は無理」と言われ、新人の私は断念するしかありませんでした。結局、在宅を希望した患者さまの願いは叶わず、病院のベッドの上で最後を迎えられました。しかし、時は流れ、現在は病院完結型から地域完結型の医療へと医療提供体制が変化し、在宅での末期医療が実現するようになってきました。これらは、ひとえに末期であっても在宅でその人らしく過ごせるよう、地域の先生方が在宅医療にご尽力されてきた成果であると実感しています。

まだまだ、地域医療連携は始まったばかりであり、課題は山積みですが、患者本位の医療を目指しがんばっていきたくて考えておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

チーム医療事例検討会のお知らせ

当院では、チーム医療の充実に向けて、褥瘡対策チーム、ICT（感染対策チーム）、NST（栄養サポートチーム）の活動をチーム医療として事例検討会の開催をはじめました。今後は、緩和ケアチームの活動も加えて行っていく予定です。

つきましては、下記の日時の事例検討会に土山雅人先生に「在宅医療と栄養管理」についてご講演を頂く予定です。

どうぞ、皆様ご参加下さい。

日時： 平成19年 2月 1日（木） 18:00～
場所： 県立西宮病院 2号棟3階 大会議室
テーマ： 「在宅医療と栄養管理」
講師： つちやま内科クリニック
土山雅人 先生



編集後記

早いもので気が付けば師走となりましたが、文字通り先生方もお忙しい日々をお過ごしのことと思います。

日ごろは患者さまの紹介にあたりまして格別のご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。県立西宮病院では今後も地域の先生方に支持される病院を目指し、医療連携活動に力を入れてまいります。検査放射線部でもCTやMRIなどの高額医療機器の共同利用を進めて行きたいと考えております。医療法改定により病院経営が益々困難になってきた中で、地域の患者様により良い医療サービスを提供するためには、先生方との連携をより一層充実させる必要があります。また、当院には様々な専門スタッフが在籍していますので、どんなことでもお気軽に相談していただければ幸いです。

新しい年が先生方にとって素晴らしい年であることを、また医療連携の飛躍の年であることを願っています。

検査放射線部 課長補佐
山崎 敏弘



兵庫県立西宮病院

〒662-0918 西宮市大湛寺町13番9号

電話 (0798) 34-5151 (代表) FAX (0798) 23-4594

地域連携室直通 FAX (0798) 34-4436

地域連携室E-mail chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp

